

教会学校 教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

1. みことば

祈りながら今週のテキスト(聖書箇所)を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、覚えましょう。

2. 主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例 ○: イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるようにカナで奇跡を行いました。(×: カナの婚礼と奇跡)

3. 教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

4. メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。

◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

教会教育部公式サイト <http://ce.ag-j.or.jp/>

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

教師ノート

日付	2011年 5月 1日
単元	モーセ・1
テーマ	困難の中でも神は必ず守ってくださる
タイトル	モーセの誕生
テキスト	出エジプト1:1-2:10
参照箇所	使徒7:17-22
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	詩篇46:1
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小下 2 題 3 課 9 、 小上 1 題 1 課 10 、 幼 2 題 1 課 1
□導入	例:ヨセフがエジプトに来たきつたけを覚えていますか?彼は兄たちに憎まれて、売り飛ばされたのです。そして、奴隷となり、監獄にまで入れられましたが、最後には、エジプトの総理大臣になりました。それらは、はじめにヨセフが夢をみたところから(そのもっと前から)、すべてヤコブの子孫を祝福し、全人類を救うという神さまの計画によるものでした。さて、その後、ヤコブの子孫たちはどうなったのでしょうか?
□ポイント1 エジプトの王はイスラエル人に過酷な労働を命じました(1:1-14)	ヨセフが総理大臣だった時代に、ヤコブの家族はイスラエルから、エジプトに引っ越してきました。出エジプト記のお話は、それから何百年か過ぎたところから始まります。ヤコブも、ヨセフも兄弟たちも、みんな死んでしまいました。その後、はじめは約70人だったヤコブの子孫は、非常に多く増えていました。神は約束どおり、ヤコブの子孫であるイスラエル人を祝福してくださったのです。イスラエル人は体も丈夫で、元気な赤ちゃんがたくさん生まれました。しかし、エジプトの王は、イスラエル人を苦しめました。新しい王は、ヨセフが総理大臣となって、エジプト人を救う大活躍をしたことを知らないで、イスラエル人を大切に扱う気持ちがなかったのです。それに、王は、もし外国と戦争になったとき、数も多く・強いイスラエル人が、敵側と組んでエジプトにはむかうことを恐れていました。そこで王は、イスラエル人に、重く苦しい労働をさせました。それは、イスラエル人を、弱くおとなしくさせて、人数が増えないようにするためと、エジプトから逃げられないようにするためでした。焼けるような日光が照りつけるエジプトで、イスラエル人は強制的に、過酷な労働をさせられ、厳しく監視されました。しかし、いくら苦しめても、彼らはますます増え広がったので、エジプトの人々はイスラエルの民を恐れました。それで王は彼らに、いっそう過酷な労働を課すようになりました。
☞この頃エジプトには男性だけで60万近くのイスラエル人がいたと考えられます(女性と子どもを除く)→出エジプト12:37、民数記1:46など参照。	
☞労働=ナイル川から土を運び、それをこねて、型にはめてレンガを焼き、できた重いレンガをまた運んで積み上げて建物を作りました。また、畑での耕作はもちろん、川から田畑に水を引く用水を掘る工事や、運河をつくる工事もしたと考えられています。灼熱のエジプトでは、非常に過酷な労働だったでしょう。	
□ポイント2 助産婦たちは王の命令にそむきました(1:15-22)	さらに王は、イスラエル人の2人の助産婦たちに、恐ろしい命令を出しました。「イスラエルの母親が出産するとき、もしも男の子なら、ただちに殺してしまえ!女の子なら、生かしておくのだ。」ところが、助産婦たちは神を信じていたので、エジプトの王が命じたとおりに従わず、男の子が生まれても、殺さないで生かしました。王に罰せられることを恐れず、神に喜ばれることの方を選んだのです。やがて、そのことがパロにバレてしまいましたが、彼女らは、「イスラエルの女性は健康で力があるので、助産婦が

助ける前に赤ちゃんを産んでしまいます。だから殺そうと思っても、間に合わないのです」と言いました。神は助産婦たちをパロから守り、彼女らの家族を祝福してくださいました。さらにイスラエルの民は増え、非常に強くなりました。パロは(怒って)次の作戦を考えました。そして恐ろしいことに、「男の赤ちゃんが生まれたら、ナイル川に投げ捨てて殺せ！」という命令を出しました。

☞ 助産婦…赤ちゃんを産むお母さんを助けてくれる女の人。当時は石でできた産み台の上で分娩したようです。助産婦が2人しかいなかったとは考えにくいので、ここに出てくるのは助産婦の責任者の立場の2人かもしれません。彼女らは、イスラエル人を守るために、パロにウソを言いました。神は、彼女らのウソを祝福されたのではなく、信仰を祝福されました。彼女らはイスラエルの子孫を守るという神の御心を行なったのです。パロに罰せられることを恐れず、命がけで神を第一とした信仰を喜ばれたのです。きっと助産婦たちは、ウソを悔い改める祈りをしたことでしょう。(参照:「新聖書注解1」いのちのことば社)

☞ ヘブル人＝イスラエル人のこと。エジプト人が、自分たちと区別(差別)して使った呼び名。

□ポイント3 モーセはエジプトの王女の息子として育つことになりました(2:1-10)

その頃、ひとりのイスラエル人の男の赤ちゃんが生まれました。こんなカワイイ赤ちゃんを川に捨てることなんてできない。」そう思った両親は、3ヶ月の間、隠れてその子を育てました。しかし、見つかったら処刑されてしまいます。そこで、カゴを水が入らないように工夫して、その中に赤ちゃんを入れ、ナイル川の岸の葦の茂みの中に置きました。お姉さん(ミリヤム)は、赤ちゃんのことが心配で、遠くに隠れてどうなるか見守っていました。するとそこへ、パロの娘(王女)が水浴びをしにやってきました。王女はカゴを見つけると、侍女に取って来させました。あけてみると、中でヘブル人の男の子が泣いていました。王女はそれを見て、かわいそうに思いました。すかさずミリヤムが出て行って、「乳を飲ませる人が必要ではありませんか？その子の世話をするよいヘブル人を知っていますが、呼んで来ましょうか？」と言いました。「お願いするわ」王女にそう言われたミリヤムは、男の子の本当のお母さんを連れてきました。もちろん王女は、何も知りません。王女はその母親に「この赤ちゃんを、大切に育てておくれ。その分お給料をあげましょう。」と言って、男の子の世話を任せました。男の子は成長し、王女の息子として王室で暮らすようになりました。王女は男の子を「(水から)引き出す」という言葉から、「モーセ」と名付けました。

□結論 モーセは神さまに守られました 暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

本来なら、モーセは、生まれてすぐ殺されるはずでした。さらに王女に拾われたとき、すぐにナイル川に捨てられてもおかしくありませんでした。それなのに、実の母親が、しかも賃金をもらってそだてることができるようになりました。こうして、モーセは、母親と一緒に暮らせる上、安全で安定した暮らしが保障されたのです。この間に、両親からイスラエルの神について習うことができました。それだけではありません。モーセは将来、イスラエルの人々を助け出す指導者に選ばれます。神さまはその準備として、モーセに、宮廷で最高の教育を受けることができるようにしてくださったのです。なんてスバラシイ方法でしょう！最悪の事態から一転、思いもよらない最高の状況が与えられました。このように、神さまは、私たちがどうすることもできないような困難にあっても、不思議な力で守ってくださいます。そして、私たちが思うよりはるかにすばらしいミラクルで、私たちを助けてくださいます。神さまは、いちばん良いことをしてくださいます。あなたにとって、完全に不利だと思ふとき、万事休すというどうしようもない状態になるとき、絶対に勝つてこないと思ふときはどんなときですか？神さまは絶対にあきらめたり、見捨てたりなさいません。みごとな神ワザで、あなたを守ってくださいます(助産婦たちの信仰も見習おう！)。勉強・スポーツ・習い事・霊的成長・伝道など生活のすべてにおいて、あなたもあきらめず、神さまを信頼し、祈り続けましょう。あなたを助ける方法は、神さまがもうすでに用意してくださっているよ！特に神さまは、人を罪から救う計画を着々と進めておられます。ぜったい教会になんて来ないと思う人のためにあきらめないで祈り続けましょう。

教師ノート

日付	2011年 5月 8日
単元	モーセ・1
テーマ	神は私たちに召し、共にいてくださる
タイトル	使命を与えられたモーセ
テキスト	出エジプト2:11-4:31
参照箇所	使徒7:17-34
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	出エジプト3:12
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小下 2 題 3 課 10 、 小上 1 題 1 課 10 、 幼 2 題 1 課 2

□導入

今日は、モーセが神さまと不思議な出会いをする場面のお話です。先週のお話を思い出しましょう。モーセはどこで育ちましたか？エジプトのパロの王宮で王女の息子として育てられましたね。しかし、モーセは神さまとであったとき、ミデヤンという田舎で、羊飼いをしていました。どうしてだと思いませんか？それはある失敗がきっかけでした。

□ポイント1 モーセはエジプトを出てミデヤンへ行きました(2:11~25)

モーセは立派なおとなに成長しました(使徒7:23によると40歳)。彼は、自分の仲間であるイスラエル人が、苦しい労働をさせられているのを目の前で見ました(モーセは、幼少時代に自分がイスラエル人だということを、本当の母親からしっかり教えられていました)。そして非常にせつない気持ちになり、なんとか仲間を助けたいと思いました。その時、あるエジプト人が、ひとりのイスラエル人をいじめているのを見ました。モーセはゆるせない気持ちになりました。恐ろしいことに、モーセは、あたりを見回し、だれもいないことを確認すると、そのエジプト人を打ち殺し、砂の中に埋めて隠しました。これは重大な罪です。イスラエルの愛する気持ちから、勇気を出して仲間を助けたとしても、人を殺すのはいけません。次の日、また外に出てみると、今度は、ヘブル人同士が争っているのを見ました。そこでモーセは、悪い方に向かって、「どうして仲間を打つのか」と言いました。するとその男は、「お前なんか、俺たちの裁判役ではない。それとも、エジプト人を殺したように、俺のことも殺すつもりか」と言いました。イスラエル人も、モーセのしたことを受け入れなかったのです。さらに、パロもモーセがエジプト人を殺したことを聞いて非常に怒り、「死刑にしてやる！」と探し始めました。そこでモーセは、誰も追ってこないように、ミデヤンという地方まで逃げました。モーセが井戸のそばに座っていたとき、レウエルという人の7人の娘も羊たちに水を飲ませに来ていました。そこへ意地悪な羊飼いの男たちが来て、彼女らを追い払いました。モーセは、女性たちを助け、親切にしました。それがきっかけで、モーセはレウエルの家族と一緒に、ミデヤンに住むようになりました。娘のチッポラと結婚し、男の子が生まれました。

□ポイント2 神さまはモーセに使命を与えられました(モーセは召命を受けました)(3章)

☞特に3章1-12節は、こどもたちと一緒に、聖書をよく読みましょう。

エジプトではイスラエル人が、過酷な労働に叫びを上げる毎日が続いていました。神はその嘆きに心を留めておられました。一方、モーセは40年の間、ミデヤンで羊を飼って暮らしていました。もう80歳です。ある日のこと、モーセは羊の群れを連れて、ホレブ山にきました。そこで、柴が燃えていて、その炎の中に、主の使いが現れました。不思議なことに、炎に包まれているのに、木は全く焼けていません。モーセが近寄ってみようとする、「モーセ、モーセ」と声がしました。神が柴の中から呼ばれたのです。モーセは、「はい、ここにおります」と答えました。神さまはモーセに言われました。「ここに近づいてはいけない。あなたの足のくつを脱げ。あなたの立っている場所は、聖なる地である。」モーセは神を仰ぎ見る

ことを恐れて、顔を隠して聞いていました。神はまた言われました。「私は、エジプトにいる私の民の苦しみを確かに見、叫びを聞いた。私は彼らの痛みを知っている。私は、彼らをエジプトの手から救い出し、乳と蜜の流れる(=農耕や牧畜のために豊かな)カナンの上に上らせる。」そして、モーセに「今、行きなさい。私はあなたをパロのもとに遣わします。苦しんでいる私の民をエジプトから連れ出さなさい」と言って、重大な使命を与えられました。(このように神が、私たちに使命を与え、ご用のために呼び寄せてくださることを「召し」とか「召命」といいます。) モーセは驚き戸惑うばかりで「そんなこと、私にできるわけがありません」と言いました。すると、神は、「私があなたとともにいる。私があなただを遣わすのだ。」と言われ、モーセにチカラがなくても、神が助け、成し遂げてくださることを約束してくださいました。そしてエジプトで、パロに対して何をすればよいのか、具体的な指導をしてくださいました。

- ☞ モーセは、神に名前を聞きました。「自分には自信も権威もない。いったい誰の権威で、このことを民に告げればよいのか。」彼は先に、自分が神にとって何者なのかを問いましたが(11節)、今度は、神が自分にとって何者なのかを問う質問です。「私はある」というのは、名前でもあり、初めから終わりまで、変わらず、生きて働いてくださる神のご性質(自存性・永遠性)を表すことばです。

□ポイント3 モーセは神さまの召しに従ってエジプトに行くことにしました(4:1-31)

神は、不思議なしるしを与えてくださいました。(①モーセの杖を、一瞬でへびに変え、またそれを杖に戻す。②モーセが手をふところに入れると、皮膚病で真っ白になり、また入れると元の手に戻す。) これらは、神がモーセを選んだことを、人々に信じさせるためです。それでもモーセはまだ不安でした。彼は神に「私はしゃべるのが苦手なので、リーダーには向いていないと思います」と言いました。神は「言うべきことは私が教えるから、心配しないでよろしい」と答えられました。なのにモーセは「やっぱり他の人にしてください」と言ってしまいました。自分のチカラに自信がないのは、仕方のないことです。でも、神が「ともにいて助ける」と約束して下さっているのですから、それを信頼するべきでした。神はそのことを怒りました。しかし、なおも哀れんで「話すのが得意な兄アロンを通して、あなたを助けるから大丈夫です」と、モーセに言い聞かせて下さいました。こうしてモーセは、神が与えてくださった使命に従うことを決心しました。エジプトで苦しんでいるイスラエルの民を、パロの手から救うために、立ち上がったのです。

□結論 神さまはモーセにイスラエルの民をエジプトから救い出す使命をお与えになりました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

暗唱聖句を読み上げます 神さまはわたしたちにも、それぞれに使命を与えてくださっています。あなたの使命は何だと思えますか？神さまは、愛するご自分の民を救いたいのです。そのためにあなたを助けてほしいのです。あなたは将来どんなことをして、どんな人に福音を伝えますか？(CSの先生になって子どもたちに伝える、お医者さんになって病気で困っている人に伝える、宣教師・Jリーガー・社長さん・宇宙飛行士になってイエスさまを伝える…など)自分なんかには神さまが特別な使命を与えてくれるわけがないと思っている人はいませんか？神さまは失敗して逃げ出したモーセ、弱気でしゃべるのが苦手なモーセをイスラエルのリーダーにしてくださいました。また、子どもだからまだ使命はない、と思っている人はいませんか？子どもだからできることもたくさんあります。(CSにお友だちをさそう、夏休みをつかっていっぱい奉仕をする、賛美やダンスでお年寄りを励ますなど)遣わして下さるのは神さまですから、神さまが助けてくださるのです。時には不思議な奇跡も見せてくださいます。あなたが苦手なことでも、使命を成し遂げるために、その能力も与えてくださいます。そして、必要な場所にあなたを遣わしてください。いえ、もう遣わして下さっているのです。今、あなたがいる家・学校・習い事・教会…そこは神さまがあなたを遣わして下さった場所です。何をするためにでしょうか？考えてみよう！恐れることはありません。神さまは約束どおり、いつもあなたとともにいて、励ましてくださいます。あなたは神の使命を受けています。「無理です、他の人にしてください」というよりも、神さまに与えられた使命に従って生きる方が幸せだね。

教師ノート

日付	2011年 5月15日
単元	モーセ・1
テーマ	神は救いの道を備えてくださる
タイトル	過越しの小羊
テキスト	出エジプト11:1-13:16
参照箇所	出エジプト5:1-10:29、Iコリント5:7、エペソ1:7、ヨハネ1:29
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	ヨハネ1:29
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小下 2 題 3 課 11 、 小下 2 題 3 課 12 、 小上 1 題 1 課 11 、 幼 2 題 1 課 3
□導入	いよいよ、モーセはパロのところに行きます。パロはすんなりイスラエルの民を、エジプトから出してくれるでしょうか？パロの心を変えるために、神さまが使った方法とは？
□ポイント1 神さまはエジプトに災いを下されました(11章)	(5-6章) モーセ(80歳)は、イスラエルの民をエジプトから救い出すために、パロの所へ行きました。しかしモーセとアロンがいくら頼んでも、パロの心はとても頑固で、イスラエル人を解放してくれません。それどころか、イスラエル人をもっと苦しめました。 (7-10章) 神は、強情なパロを罰し、心を変えるために、災いを下されました。9の災い=①ナイル川の水を血に変える(7:17-25)、②カエルが全土をおおう(8:1-15)、③ぶよの大群が人や獣を襲う(~19)、④あぶの群れが家の中にも外にも満ちる(~32)、⑤疫病で家畜が死ぬ(9:1-7)、⑥すべての人にうみのでる腫物ができる(~17)、⑦雹と雷が人や獣や草木を撃つ(~35)、⑧空が暗くなるほどのいなごの大群が緑を食い尽くす(10:1-20)、⑨3日間まっくら闇になる(~29)。それでもパロは、イスラエルの民を行かせようとはしませんでした。 そこで、神はモーセに「私はもうひとつ災いを与える。その後パロは、イスラエルの民をひとり残らず解放するはずです」と言われました。その最後の災いとは、エジプトの全ての初子が死ぬというものでした。真夜中に、王の家でも、家畜の子どもさえも、初めに生まれた子どもがみんな死ぬというのです。
□ポイント2 神さまは、小羊の犠牲によって災いを過ぎ越すといわれました(12:1-28)	モーセは、最後の災いのことを、パロに伝えました。そして、イスラエルの民に告げました「今夜、エジプトの全ての初子が死にます。ただし、イスラエルの民は、次のことを行えば、その災いを受けません。すなわち、1家族ごとに、傷のない1歳のオスの羊を選んで殺しなさい。その血を家の2本の門柱とかもいにぬりなさい。またその肉を火で焼き、夜に種を入れないパンと苦菜と一緒に食べなさい。食べ残した肉や骨は全部燃やしてしまいなさい。あなたがたがこの通りに行なうなら、神があなたの家から災いを過ぎ越してくださいます。」イスラエルの民は、みな命じられたとおりにしました。真夜中になると、神はエジプト中の初子を打たれました。エジプト中で、初子を失った家族が、激しく泣き叫びました。しかし神の言うとおりにしたイスラエルの民の家の初子は生きていました。彼らは、災いを過ぎ越してくださったことを心から感謝し、神をほめたたえました。
□ポイント3 神さまはイスラエル人をエジプトから出られるようにしてくださいました(12:29-42)	その夜、パロはモーセとアロンを呼び寄せて「お前たち2人も、イスラエル人もみんなエジプトから出て行け！家畜までもみんな連れて行って、お前たちの神を礼拝しろ」と言いました。エジプト人は、このままでは自分たちも死んでしまうと思い、あわてて彼らを追い出しました。イスラエルの民に、とうとう出国の許可が出たのです。彼らは急いで支度をしました。しかし、急いでいたので、長旅の食糧としてパンを焼

くことさえできませんでした。こうして、男の人だけでおよそ60万人(女性と子どもを除く)のイスラエルの民がエジプトから出て行くことになりました。神はそれをずっと見守ってくださいました。これは、ヤコブの家族がエジプトに来てから、430年後のことでした。

「過越し」は、単なる昔のできごとではありません。これには深い意味があり、現在の私たちにも関係があるのです。傷のない羊の命を犠牲にすることによって、イスラエルの民の命は救われました。同じように、私たちが罪から救われるためには、キリスト・イエスの命の犠牲が必要だったのです。神は、羊の血によって、イスラエルの民が、災いを受けなくてすむようにしてくださいました。同じように、私たちが永遠の死を受けなくてすむように、イエスさまが十字架で血を流してくださったのです。

🍞 パン種＝当時は、パンをふくらませるために、イースト菌ではなく、発酵させておいた生地を混ぜて練る方法でした。そのため、生地をねかせておくのに非常に時間がかかりました。

□結論 救われるには犠牲の血が必要でした 暗唱聖句を読み上げます

イエスさまは、私たちの罪の身代わりとなって、十字架にかかって死んでくださいました。私たちは、みんな罪人ですが、イエスさまを信じて悔い改めるなら、誰でも罪から救われ、永遠の命を持つことができます。では、「どうして人類の救いに、キリストの命の犠牲が必要だったのでしょうか？ どうしてイエスさまが血を流されたことで、私たちが救われるのでしょうか？ それは、今日の「過越し」のお話をきいてわかりましたね。出エジプトの時、イスラエルの民の命が救われるために、傷のない羊の命の犠牲とその血が必要だったように、全人類のすべての罪が完全に赦されるためには、イエスさまの命の犠牲とその血潮が必要でした。イエスさまは、「世の罪を取り除く、神の小羊」です。神の小羊の命の犠牲によって、全ての罪人が救われたのです。2000年前、イエスさまが十字架にかかってくださったとき、イスラエルの民は「これは過ぎ越しと同じだ。神の小羊の犠牲の血によって、私たちは救われるんだ。」と気がついたはずですよ。ずっと昔から、イスラエル人はみんな過ぎ越しのことを知っていたからです。神さま、ずっと昔から、イエスさまの十字架によって、全人類を救う計画を備えてくださっていたということです。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例:みなさんも、もう一度、イエスさまの十字架の意味を深く知りましょう。今までは「どうして私の罪のためにイエスさまが十字架で死ななければならなかったのだろう？」と分からなかった人もいるかもしれませんが。私たちは、罪の結果として永遠に死ななければならない者でした。しかし、イエスさまが十字架で身代わりの犠牲となってくださったので、その血によって、罪が赦され、死から救われたのです。もし、今、心に罪があるならば、悔い改めのお祈りをして、あなたも救われましょう！！神の小羊の血は、イスラエルの民だけのものではありません。イエスさまの命の犠牲によって、全ての人の、全ての罪は、完全に赦されたのです。イエスさまの血は、どんな大きな罪も、どんなに多くの罪人も救うのに十分な、完全なけにえです。この方法しか、私たちが救われて、天国に行くことはできません。イエスさまの十字架こそが、私たちのために、神さまが何千年も前から用意してくださっていた救いの方法なのです。既にイエスさまを信じて救われているお友だちも、「過越し」について理解することで、さらに深く救いを感謝できるようになりましょう。旧・新約聖書を貫いて、神さまは、私たちを救う計画を進めてくださっていたのです。

教師ノート

日付	2011年 5月22日
単元	モーセ・1
テーマ	神は御力をもって助けてくださる
タイトル	海を裂く道
テキスト	出エジプト13:17-15:21
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 出エジプト14:22
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小下3題1課1 、 小下3題1課2 、 幼2題1課4 、 小上1題1課11
□導入	モーセとイスラエルの民は、エジプトから解放されて、とっても喜んだでしょう。でも、またしても大ピンチがおとずれます。神さまはどうやって、イスラエルの民を助けてくださるのでしょうか？
□ポイント1 神さまはイスラエルの民を導かれました(13:17-14:4)	イスラエルの民は、エジプトを出て、カナンに向けて進みました。男の人だけで60万、その家族と家畜を含めての大移動が始まります。彼らは、エジプトで生まれ育った人たちですが、神がアブラハムに与えられた約束の地カナンのはざめは知っていました。カナンへの近道はありましたが、神は、彼らを葦の海(=紅海)に沿った荒野の道に導かれました。なぜなら、ペリシテを通る近道の方には、エジプトの国境警備隊が置かれていたからです。神は、イスラエルの民が、この強そうな警備隊をみて、弱気になるのを避けようと言われました。イスラエルの民の心が折れて、エジプト脱出をあきらめてしまわないように、別の道へ回らせたのです。彼らは編隊を組んで、エジプトから離れていきました。また彼らはヨセフの遺体も運びました。 神は、昼は雲の柱の中に、夜は火の柱の中にいて、彼らの前を進まれました。昼も夜も彼らの道を照らし進ませるためでした。昼はこの雲の柱、夜はこの火の柱が民の前から離れることはありませんでした。神は、イスラエル人に、引き返して海辺に宿営するように言われました。そのころパロは、イスラエルの民を出国させたことを、後悔しはじめていました。神は、パロの兵隊が追いかけてこようとしているをご存知でした。それなのに、イスラエルの民を海辺で宿営させたのです。彼らは追い詰められてしまいました。さて、神はどんな計画をもっておられるのでしょうか。神はモーセに「わたしは、パロとその全軍勢を通してわたしは栄光を現わし、エジプトはわたしが主であることを知るようになる。」と言われました。
☞ 荒野: 草や木があまり育たない、岩と砂の土地です。恐ろしい動物もいたでしょう。人が住みたいと思わないような、寂しく、恐い土地です。「荒野の道」といっても整備された道があったわけではありません。	
□ポイント2 イスラエルの民はエジプトの兵に追い込まれました(14:5-14)	パロはやはり、イスラエル人をこのまま去らせてしまうのが惜しくなりました。そこで、とびきり強い戦車を600台と、エジプトの全部の戦車を率いて、イスラエル人を追跡しました。イスラエル人は海辺に追い詰められそうになって、非常に恐れました。初めは神に叫びましたが、次第にモーセに文句を言うようになり、「おいモーセ！ いったい何ということをしてくれたんだ！ こんな荒野で死ぬくらいなら、エジプトで働く方がまだましだったじゃないか！」 モーセのおかげでエジプトを出たときは喜んでいたはずなのに、自分に都合が悪くなると、すぐにモーセを責め始めたのです。しかしモーセは「恐れることはありません。静まって、神が行なわれる救いを待ち望みましょう。主があなたがたのために戦ってくださるのですから、心配しないで神にゆだねましょう！」 彼は神を信頼していたのです。

□ポイント3 神さまは、イスラエルの民をエジプトの手から救われました(14:15-31)

前方には紅海、後方には恐ろしいエジプトの大軍が迫って来ています。もちろん海に橋や船はありません。飛び込んで死んでしまうだけです。いよいよ絶体絶命のピンチです。その時、神はモーセに「民を前進させなさい」と言われました。すると、民の前を進んでいた雲の柱が、彼らの後ろに回りました。そして、エジプトの陣営とイスラエルの陣営との間に入り、エジプト軍の前に闇をつくりました。彼らは一晩中、その真っ暗な雲にさえぎられて、イスラエルの民に近づくことができませんでした。その時、モーセが、神のことばに従って、杖を海の上に差し出しました。すると神は、一晩中、強い東風を吹かせました。そしてナント！海の水を分けて、乾いた陸地を歩けるようにしてくださったのです！！イスラエルの民は、驚きと同時に感謝して、神をほめたたえたでしょう。彼らは海の真中のかわいた地を、歩いて進むことができたのです。海の水は、まるで壁のように、彼らの右と左で積み上がったまま、とどまっています。しかし、まだピンチは続きます。パロの戦車と騎兵隊が、海の中の道を、追いかけて来たのです。神は戦車の車輪をはずして、進めないようにし、エジプトの陣営をかき乱してくださいました。それを見て、エジプト人は「まずい、逃げよう！神が彼らのために、戦っておられるのだから勝ち目がない。」と言いました。そのうち、イスラエルの民は、全員向こう岸にたどり着き、岸に上がりました。すると神がモーセに「あなたの手を海の上に差し伸べ、水がエジプト人と、その戦車、その騎兵の上に返るようにせよ」と言われました。モーセがそのようにすると、海がもとの状態に戻りました。エジプト人は水が迫って来るので逃げましたが、主はエジプト人を海の真中に投げ込みました。水はもとに戻り、あとを追って海にはいったパロの全軍勢の戦車と騎兵をおおいました。全員が溺れ死んで、誰ひとり生き残ることができませんでした。このようにして、主がイスラエルの民をエジプト軍の手から救い出されたのです。イスラエルは海辺に死んでいるエジプト人を見ました。イスラエルの民は、主がエジプトに行なわれたこの大いなる御力を見たので、主を恐れ、主とそのしもべモーセを信じました。

□結論 神さまはイスラエルの民を導き、エジプトから救い出してくださいました

暗唱聖句を読み上げます

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

雲の柱・火の柱で導いてくださる神さまについて進んでいこう。いつも聖書を読み、聖霊さまの導きを求める生活をしよう。神さまは、暗闇の中でもあなたの道を照らし、進むべき道を教えてくださいます。

イスラエルの民は、神さまに導かれてエジプトを出たのに、紅海の手前で最大のピンチを迎えました。みなさんは、神さまの導きに従って、返ってピンチに追い込まれたことがありますか？（仲のいいお友だちを教会に誘って嫌われた・いじめられているお友だちを助けて自分がいじめられたなど）そんなとき、「こんなことなら、神さまに従うんじゃなかった」と文句を言うかもしれません。でも、あなたが神さまの導きについて行っている限り、神さまがあなたのために敵と戦ってくださいます。勇気をもって前に進みましょう。ピンチのとき、慌てるのではなく、祈って神さまの助けを待ちましょう。また追い込まれたとき、心配したり、恐れて引き下がるのではなく、1歩踏み出しましょう。そのとき海が裂けて道ができるような、神さまの助けを体験することができるのです。もともと神さまは、全ての障害を取り除いて、彼らを安全にカナンに到着させることができたはずで、では、どうして彼らをわざわざ海辺まで引き帰させて、海を裂いて道を渡らせたのでしょうか？それは、彼らに神さまに頼ることを教えるためです。そしてミラクルを見せるためです。神さまを信頼すれば、神さまが素晴らしいことをしてくださいます。ピンチになったとき、自分の力ではなく、神さまの力に頼ろう。神さまにはなんでもできるのです。みなさんの生活の中にも、こんなミラクルが起こります。聖書に書いてあることをそのまま信じて、大胆に進んでいきましょう。